

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろStudy		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富なスタッフが揃っていること。 (保育士、児童指導員を始め、心理の専門知識を持つ社員だけでなく、パート、アルバイトスタッフも、保育園や小学校、児童発達支援センター、介護福祉士、社会福祉士や特性を持つ小・中学生の家庭教師を長年経験しているスタッフ、運動療育、SSTのスキルを持つスタッフなど。)	保護者様に寄り添い、安心して子育てができるようにお手伝いをさせていただき、子どもたちがその特性のハンデを乗り越えてさらなる成長ができるような場を目指している。	ケースバイケースに臨機応変に対応し、保護者目線、利用者目線に立って固定観念に縛られないようにしています。
2	子どもたちのために良いと思われるものは進んで取り入れトライ・アンド・エラーで向上を目指し、また少人数のやり取りや触れ合いで温かく親しみのある場を提供させていただこうとするスタッフ力が強み。	視覚刺激に弱い方のための仕切られた個別スペースや、そうでない方のための並列スペース、ビジョントレーニングに集中できるスペースと遊びなどのスペースとレイアウトを考え工夫している。また、スケジュールボードを個別に利用できるようにし、段取り力や集中力をつける練習。	
3	少人数での療育。	少人数での療育のため、固定曜日のメンバーだけでなく、他の曜日の振替やイベント等で、意識的に普段と違うお子さんとのやり取りができる機会を作り、コミュニケーションの幅を広げられるようにする取り組みを積極的に行っている。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育スペースが限られている。	開業当時からある施設につき、リフォーム工事を経て、最大限のスペースである。	レイアウトを工夫し、特性に応じた学習スペースの工夫や動線を考えて、限られた空間でも、安全と安心を保証できる使い方を常に意識して療育を行っている。
2			
3			